



がんと診断された
患者さんご家族が抱える
気がかり・辛さを
一緒に考える多職種ケア

春日部市立医療センター 精神神経科
臨床心理士(公認心理士) 野極 由香梨



がん患者さんへの心理的支援



- がん患者さんの心理的支援は、がんの治療と同じくらい大切
- がん患者さんやそのご家族の不安や悩みに対して、それぞれの診療科でも対応をしています。
- 心理士は、心理的支援を専門として院内で活動し、様々な診療科のスタッフと連携をして患者さんのケアにあたります。



心理士の役割



- 心理士は、がんになったことによる不安や落ち込みに対し、心理学的な手法を用いて相談に乗り、支援を行います。
- 「時間を使う傾聴」：心理士心のケアを専門にしているため、心のケアのために十分な時間を取り、患者さんが普段言葉にしづらいような話もじっくりと聴くことができます。



主な相談内容



- 治療に関する不安：治療法の選択や治療・病気に対する不安
- こころの苦悩：不安や落ち込み、不眠、食欲不振など精神的な辛さ全般
- 暮らしの負担：仕事や社会的活動との両立、経済的な負担、家族や人間関係のストレス



がん患者家族へのケア



- 「第二の患者」：家族は患者さんと同じような感情を経験
- ストレス：介護疲れや不安、ストレスを抱え込み、時には患者さん以上に心のケアが必要になる場合がある
- 相談の難しさ：家族や友人には言えない本音を抱え込むことがあり、カウンセリングは安心して話せる場となることもある



治療後のケア



- 治療後の不安：治療が緩解しても消えない再発や転移の不安
- 人生観や価値観の変化：治療の経験がその後の考え方の変化へ
- 仲間の存在：似た経験をしたからこそ分かり合え、支え合えることも



ご清聴
ありがとう
ございました

